

校外学習の安全対策を万全に

佐藤 一郎
(東久留米維新の会)



質問 最近の事故の報道で、校外学習に不安を抱えている保護者の方もいる。安全対策について伺う。

答弁 実施前の綿密な計画、保護者への丁寧な情報共有などが重要であると考え、児童・生徒の生命と安全を守ることを最優先とし、各学校に対して、第1に事前準備と現地調査の徹底、第2にアレルギーや持病への個別対応、第3に熱中症や感染症などの保健衛生管理、第4に児童・生徒自身の危機予測能力を向上させる事前安全教育の推進、そして保護者への丁寧な情報発信と不安の解消等について、指導・徹底を図っている。今後とも、学校宿泊施設、家庭が確かな信頼関係の下で密に連携し、保護者に安心していただけるよう万全の対策を講じながら、こどもたちが安全に、そして安心して豊かな学びを体験できるよう、実りある教育活動の推進に努めていく。

変化を力に、未来を拓くまちへ

沢西 卓哉
(自民クラブ)



質問 連絡所のあり方検討報告書の概要について伺う。

答弁 コンビニでの証明書交付、公金納付、オンライン申請、キャッシュレス決済等を整備し「連絡所」という場所での業務は取り止め、他の手法等によるサービス提供の取り組みを推進することが妥当である」との結論に至った。

要望

この結論について、マイナンバーカードの取得促進やキオスク端末の利用促進等の取り組みに注力することは合理的であり、十分理解できる。今後の跡地活用検討は、市民全体にとって最も効果的な活用となるよう要望。

質問

東京における宅地開発の無電柱化の推進に関する条例の概要および本市の規制区域について伺う。

答弁 開発事業者には、開発許可申請時に開発許可権者へ無電柱化の実施計画を届け出ることを義務付け。本市では浅間町地区が規制区域と見込まれる。

地域の魅力創出・観光事業の推進

野島 武夫
(自民クラブ)



質問 今年度取り組んでいる西武線沿線地域連携事業について伺う。

答弁 西武線を基軸とした広域的な連携を通じて、本市の魅力や内外に発信するとともに、観光振興や地域経済の活性化、さらには関係人口の拡大など、さまざまな分野で相乗効果を生み出していくことを目的とし、今年度は市域を越えた街バルを実施予定。新たに西武池袋線・西武秩父線沿線の自治体および西武鉄道で構成される西武線沿線サミット実行委員会に参画する。

質問

成人歯科検診事業について、今年度より対象年齢を拡大しているが、拡大の背景について伺う。

答弁 従来の制度では、20代、30代は定期的な公的歯科検診の対象外だったが、近年、この世代の歯周病罹患率が上昇し、全身の健康リスクへの影響が懸念される状況となったことから、国において節目検診の対象に追加した。



東久留米市議会
会議録検索システム
(<https://www.city.higashikurume.tokyo.dbsr.jp/index.php/>)



本会議の進行を務める沢田孝康議長

就労問わず柔軟な保育利用が可能に

阿部 利恵子
(公明党)



質問 こども誰でも通園制度がスタート。①申請や利用状況、②利用料は。

答弁 ①こども誰でも通園制度総合支援システムでの4月末時点の暫定数値は、本市の78世帯が認定。4月末頃まで定員はおおむね埋まっている。②都の上乗せ事業の実施施設を利用する場合、上限はあるが無償化の対象。

要望

さらなる制度の周知と充実に向けての取り組みをお願いしたい。

質問

はしか流行への対応について、①都の緊急接種事業の対象者は、②都の麻疹抗体検査事業で市負担のない抗体検査だけでも実施すべきと考えるが。

答弁 ①保健所が必要性を認めた接種者のうち、はしか患者との接触から72時間以内、はしかの既往歴がない、予防接種歴が1回まで、または不明等の条件に該当する接種者で希望する者。②対象者の把握が難しい点や実施事例等により、現時点では実施は難しい。

着実な公園と雨水管整備に期待大！

高橋 和義
(公明党)



質問 公園について、①すみれ公園における水道の設置について、②遊具を活用した日陰づくりについて伺う。

答弁 ①令和8年度に予定している整備に合わせた設置予定。②遊具の下部に一定の日陰空間が生じるものや日よけ機能を備えた製品もあるが、安全性や維持管理性、利用者のニーズ、設置スペースなどを総合的に勘案する必要がある。公園の整備や再整備を行う際に一つの要素として参考になりたい。

質問

冠水対策について、①下里五丁目4番先の雨水管整備の成果、②土のうステーションの明示の工夫と増設は。

答弁 ①台風第6号による当該箇所冠水状況について目立った冠水は発生しなかったことを確認。②現地表示板の設置など効果的な周知に取り組んでいきたい。増設については、公園に隣接したごみ集積所跡地などの活用の可能性について、検討を進めていきたい。

安心して住み続けられるまちに

北村 のり子
(日本共産党)



質問 補聴器購入補助制度の創設に加え、市の特定健康診査において聴覚検査を実施すべきと考えるが。

答弁 高齢者の医療の確保に関する法律に基づく健診項目により実施。聴覚検査は示されておらず実施していない。

意見

補聴器購入補助制度は令和7年12月時点で都内26市中16市が実施。都の補助を受け支援をする行政が増えていることを心に留めておいてほしい。

質問

私道の整備に関する工事の種類や補助対象、補助率について伺う。

答弁 東久留米市の私道整備に関する条例および同規則に基づき実施。種類は、舗装工事、道路排水工事、下水道管埋設工事の3種類。補助対象は道路幅員や起点・終点等の要件に該当するもの。補助率は要件により50%から100%。

質問

私道の寄附は可能か。

答弁 一定の受領基準を設けて対応。まずは、都市建設部管理課に相談。

こどもの権利から児童館の在り方を

鴨志田 芳美
(日本共産党)



質問 どのエリアのこどもたちも居場所である児童館に行けることが大事。市内のこどもたちの声を聞いて考えていくべきでは。市の考えを伺う。

答弁 施設面・人材面について、児童館をより魅力的にし、多くのこどもたちや保護者の方々に利用いただけるよう、こどもたちの意見も聞きながら指定管理者とともに取り組む。また、児童館の今後に関しては、公共施設マネジメントの視点の中で検討が図られる。

質問

東久留米市第三次緑の基本計画・生物多様性戦略の中間見直しに向けて、緑被率と樹冠被覆率の調査を希望するが、見解は。

答弁 樹冠被覆率を指標とする自治体もあるが、本計画においては、樹木だけでなく農地や草地なども含めた緑の総量を把握する指標として緑被率を採用しており、樹冠被覆率は指標として位置付けていない。

竜馬よ、財政力危機を乗り越えろ！

宮川 豊史
(久留米ハートネット)



質問 富田市政2期目は順調にスタートし、安定しているが、財政は決して安定していない。東久留米市の今の財政力ですべての事業実施は不可能。優先事業と取りやめる事業の判断が重要。それだけの危機感を持って市政に臨むべき。竜馬が来る事業は、市長自ら市民団体のもとへ出向いて話し合うとても良い事業。ぜひ今後も継続を。

市長

次年度以降、参考にする。

質問

デジタル化も民営化も公務員の削減につながってこそ意味がある。改革の最大の柱である定員適正化計画を策定すべきと考えるが。

答弁

新たな計画を8月にまとめる。

質問

東久留米駅西口の違法建築状態を解消し大規模改修する取り組みを評価するが、時間がかかり過ぎ。もっとスピードアップすべきでは。

答弁

今年度は都市計画事業認可の取得に向けた取り組みを進める。

いつまでも安心して暮らせるまちに

問宮 美季
(市民自治フォーラム)



質問 市内の指定介護事業者の指定の一部効力の停止処分があったと市より情報提供があった。①発覚した経緯、②再発防止への取り組みは。

答弁 ①利用者のご家族からの問合せにより発覚。②改めて介護サービス事業者へ法令遵守の徹底を通知。行政処分後も定期的に改善状況を確認。事業者も、管理者のほかに監督する立場の人材を新たに配置し、体制強化を図っている。市として利用者やご家族へ丁寧な説明に努めていきたい。

質問

高齢者等世帯に対する「ごみ出しサポート事業」について、対象を要介護1からとするよう求めるが、見解は。

答弁 通常の収集業務の範囲内で対応可能なケースに限り実施している。新たな費用負担が発生する可能性があり、持続可能な仕組みとすることが重要であるため、現時点では、現在の要件および方法により事業を実施していく。